令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 翠庄会

目次

1.	はじめ	15	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
2.	基本理	念	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
3.	基本方	針	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
4.	事業の	経営		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
5.	多機能	型	か	わ	せ	4	0	家		•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
6.	共同生	活援	助	•	短	期	入	所		楓	0	郷		•	•	•	•	•	17
7.	多機能	型	あ	ん	だ	ん	て			•	•	•	•	•	•	•	•	•	18
8.	共同生	活援	助	•	短	期	入	所		和	つ	L	ょ	()		•	•	•	26
9.	相談支	援事	業	所		ひ	ま	ŋ		•	•	•	•	•	•	•	•	•	27

1. はじめに

脱コロナを原動力とし景気回復を試みる動きのなか、国際情勢は混迷を極め、国内においては物価の上昇、慢性的な人手不足、政治不安、自然災害など先行きが見えない不安定な1年でした。

当法人においてはまん延防止・安心できる事業運営の為、本年においても感染症についての研修を重ね、感染対策をゆるめることなく現在まで継続して行ってまいりました。

また、社会の動きに準じながらインボイス制度の登録、商品価格の見直し、販路の拡大、地域イベントへの参加など地域社会とつながるべく模索し、動き出した年にもなりました。

福祉業界の人手不足は全国共通の問題でありますが、当法人においても前半は職員の退職があり、職員補充、とくに専門職の確保に苦慮することもありました。しかしながら年末年始にかけては資格保有者による採用への問い合わせが3件あり、いずれも採用の運びとなりました。また、令和5年度は4名の職員が国家資格を取得することができました。おかげで、現在、職員体制は整ってきております。とは言え、若い層の職員が少ないという点では課題も残っており、数年先を見越した人材確保に向けて、求人活動にも取り組んでいく必要があります。

令和6年度は報酬改定が行われる年となり、障害福祉の世界もより厳しい一面が予想されますが、利用者主体のよりよいサービス提供を目指すという方向性はそのままに、今後も広く地域とつながりを持ち、生き生きと積極的に地域に根差した活動を進めていきたいと思います。

2. 基本理念

利用者一人ひとりの自主性・個性を尊重し、尊厳をもってその人らしい自立した 生活ができるよう支援します。

3. 基本方針

- (1) 利用者の人権を尊重し、個人の尊厳が守られる福祉サービスを提供します。
- (2)利用者のプライバシー、個人情報を保護し、信頼性の高い福祉サービスを提供します。
- (3) 良質かつ安全・安心な福祉サービスを提供します。
- (4) サービスの担い手である職員の質の向上を推進します。
- (5) 利用者の日常生活において、地域住民との交流の機会を積極的に設けます。

4. 事業の経営

- (1) 障害者総合支援法に基づく事業
 - ・多機能型事業(生活介護・就労継続B型) かわせみの家
 - ・多機能型事業(生活介護・就労継続B型) あんだんて
 - ・共同生活援助・短期入所事業 楓の郷
 - ・共同生活援助・短期入所事業 和っしょい
 - ・相談支援事業(特定・障害児・一般) ひまり

※ひまりは令和5年4月に高町に移転しました

(2) 理事会、評議員会の開催

評議員会1回、理事会5回開催しました。

日時	出席状況	内容
R5.6.14	理事 5/6	① 令和4年度事業報告、計算書類及びこれらの付

理事会	監事 1/2	属明細書並びに財産目録の承認について
		② 常勤職員就業規則の一部改正について
		③ 社会福祉法人翠庄会業務執行理事職務に関す
		る規定の制定について
		④ 令和5年度第1次補正収支予算(案)について
		⑤ ~⑩ 理事候補者の選定について
		①、② 監事候補者の選定について
		③ 令和5年度定時評議員会招集の決定について
R5.6.29		① 令和 4 年度計算書類及び財産目録の承認につ
評議員会	評議員 6/7	いて
	監事 1/2	② 理事6名の選任について
		③ 監事2名の選任について
R5.6.29	理事 6/6	① 理事長の選任について
理事会	監事 1/2	② 業務執行理事の選任について
R 5 . 9 .28	理事 5/6	① 非常勤職員就業規則の一部改正について
理事会	監事 1/2	
R 5 .12.19	理事 5/6	① 常勤職員給与規定の一部改正について
理事会	監事 0/2	② 非常勤職員給与規程の一部改正について
		③ 令和5年度第2次補正収支予算(案)について
		④ 障害福祉サービス事業所あんだんて運営規定
		の一部改正について
		-

R6.3.28	理事 6/6	① 令和6年度事業計画(案)について
理事会	監事 1/2	② 令和6年度収支予算(案)について
		③ 令和5年度第3次補正収支予算(案)について

(3) 広報

翠庄会だより 8月発行

5. 多機能型(生活介護・就労継続B型)かわせみの家

生活介護

(1)利用実績

月	活動日数	延べ利用者数	実利用者数	平均利用者数
4月	22	392	21	17.8
5月	23	383	21	16.7
6月	22	410	22	18.6
7月	23	307	22	13.3
8月	23	400	22	17.3
9月	22	396	22	18
10月	23	431	22	18.7
1 1 月	22	397	22	18
1 2月	23	377	21	16.4
令和5年1月	23	347	20	15.1
2月	21	323	20	15.4
3月	23	388	20	16.7

(2) 事業内容

個別の支援計画にもとづき、作業支援、余暇支援、食事や排せつ・入浴介助、散 歩・ストレッチ等の活動を提供しました。

ひだまり・食堂スペースでは障害程度の軽い方は下請作業やひだまりカフェを中心に活動を組み立てました。ひだまりカフェでは、それぞれに役割を担い、気持ちのいい接客を心がけています。また、重度の利用者については音楽を流したり、少人数グループの中で一緒に過ごす時間をつくることなど自宅では味わえない刺

激を楽しんでいただけるようにしています。

虹の部屋では前年度に続いてアクセサリーや小物づくりに取り組み、秋祭りや 地域のイベントで販売しました。

感染対策に気をつけながらお楽しみ会も企画し、仕事と楽しみな活動をバランス よく提供できるよう取り組みました。

職員間で障害特性や個別のケース検討会議を行い、発達障害者支援センターや医療機関からのご助言をいただきながら、職員が利用者一人ひとりを理解しようとする気持ちで日々の支援を提供していくうちに、利用者のパニックもほぼ皆無となり、言語を介さずともコミュニケーションがとれている瞬間が共有でき穏やかな日々となっています。

2名の利用者が入院をきっかけに1名は退所、1名は利用が止まっています。 今後も利用者一人ひとりが健康で通所でき、やりがいを感じられる活動や時間が 増えていくことを目標に取り組んでいきます。

- 1)利用定員 22名(登録者数 22名)
- 2)障害支援区分 区分3・・・2名、区分4・・・3名、

区分5 · · · 9名、区分6 · · · 8名

3) 日課

9:00~10:00	登所 (送迎車利用、徒歩)
10:00	朝の会、体操
10:00~12:00	午前の活動
12:00~13:00	給食、休憩、口腔ケア
13:00~15:00	午後の活動

15:00~	帰宅準備
15:10~	帰宅(送迎車利用、徒歩)
15:30~	

4) 休業日

日曜日、年末年始12月29日から1月3日

5)作業収入

下請け等 1,181,358円

ひだまりカフェ 140,900 円

小物づくり 17,561円

就労継続B型

(1)利用実績

月	活動日数	延べ利用者数	実利用者数	平均利用者数
4月	22	321	17	14.6
5月	23	335	18	14.6
6月	22	333	18	15.1
7月	23	303	18	13.1
8月	23	333	18	14.5
9月	22	328	18	14.9
10月	23	351	18	15.3
1 1 月	22	340	18	15.5

1 2 月	23	329	18	14.3
令和5年1月	23	333	18	14.5
2月	21	297	18	14.1
3月	23	346	18	15.0

(2) 事業内容

何かを始める時の、まず「やってみよう」という気持ち、そして好きになったことややってみたいことを人に言われずとも何度でもチャレンジする気持ち、努力する姿、そのことを前提に「働くとはどういうことか」をしっかりと伝え、個別支援計画に基づいた個々の目標に向けて就労支援を行っています。作業工程を細分化し関われる部分を増やすことでそれぞれの自信につなげています。

利用者の高齢化に伴い、視力聴力低下等による作業能力・スピードの低下、持続力の低下、安全面の見守りなど支援者側からすると課題となる点も増えてきている現状の中、かわせみの家で働きたいという利用者の願いを活動内容にどう反映させていくか職員間で話し合いを重ねています。

物価高騰により原材料の値上がりが続いたことやインボイス制度が始まったことで、かわせみの家でも 10 月に商品の値上げに踏み切りました。同時期に販路が拡がったこともあり、値上げの影響はなく、売り上げは順調に伸びています。

新商品開発、商品の値上げ、ロス率の低減、販路の拡大、新規の施設外支援など 収益アップにつながる取り組みを行った結果、平均工賃は23,000円となり、前年 度と比較して4000円アップしました。新しい商品の開発や自主製品の売れ行きが 伸びることなど成果が目に見えることを利用者・職員共に喜びあえています。

1) 利用定員 18名(登録者数 18名)

2) 障害支援区分 区分2・・・3名、区分3・・・6名

区分4・・・6名、区分5・・・1名、 区分なし・・・2名

3) 日課

9:00~10:00	登所(送迎車利用、徒歩、自家用車)
10:00	朝の会、体操
10:00~12:00	午前の作業
12:00~13:00	給食、休憩
13:00~15:00	午後の作業
15:00~	帰宅準備
15:10~	帰宅(送迎車利用、徒歩、自家用車)
15:30~	

4)休業日

日曜日、年末年始12月29日から1月3日

5)作業収入

食品部門 6,639,744 円

パンを担当する職員の長時間勤務が長年の課題でしたが、作業工程の見直しや工 夫により8時間勤務が可能となりつつあります。そのことにより、利用者が作業に 関われる部分も増え、利用者・職員相互にメリットが生まれています。

広島市内のふれ愛プラザにクッキーを納品したことをきっかけに、東京の企業より一部商品を継続して注文をいただけており、売り上げ増につながっています。

庄原市役所・西城しあわせ館の販売や高地区のふるさとまつりなどお客様と対面で販売できる機会も増え、利用者は販売を通じて接客マナーや社会性を身に着ける機会が再開しました。

生産・請負部門 68,676 円

下請作業は利用者間の自己組織化が進み、安全な作業環境の構築によりケガをすることもなく安定した作業ができています。また悪天候の日や気温が高くて外作業ができない日などに室内でできる作業として提供できています。

活動内容:下請け作業・・・部品カット、検品

印刷事業・・・・ラベル作成

野菜・唐辛子・乾燥野菜部門 406,188 円

畑で育てた野菜は給食やグループホームの食材、事業所内販売、乾燥商材として 活用しています。

唐辛子の栽培も4年目となり定着してきています。一味唐辛子やゆず唐辛子は 市役所やしあわせ館、ふれ愛プラザで販売を始めています。

また、近隣の農家や保護者から提供していただいた野菜を食べやすい大きさに カットし、乾燥野菜・ドライフルーツ・粉末等に加工し個包装して販売を始めまし た。食べきりサイズで使いやすく時短料理に最適と喜ばれています。

乾燥野菜の作業については"室内でできる""座ってできる"作業として関われる利用者が多いというメリットがある一方、衛生管理の徹底・食を扱う責任をしっかりと伝える性質上、今後パンや菓子製造を目指す利用者に導入の活動とする意味でも今後力を入れていく予定です。

施設外支援 767,230 円

市内マンション清掃、市内の高齢者施設の清掃を施設外支援として行いました。 新しく始めた高齢者施設の清掃は一般就労を目指す利用者が週3回携わっており、就労収入の安定につながっています。該当の利用者が休まず継続して仕事に行くために、健康管理・生活支援について時間を要する場面も多くありますが、施設外支援が他の利用者の刺激にもなっています。 野菜作りを好む利用者が農業の手伝いに行っており、生活の励みにもなっておりますが、年齢的なところで体調に無理がないよう雇用主の方と作業内容や体調面について連絡を取り合っています。

健康管理

令和5年度も感染症に関する職員研修を行い、感染対策を続行していきました。 7月と2月にコロナウイルスのクラスターが発生した際は、早期修復に向けて 消毒の徹底やゾーンの区分け、一部作業部署の閉所などを行いました。

嘱託医である西城病院の郷力院長の指導の下、健康管理に留意していきました。 生活介護の利用者には年2回往診を行いました。

令和5年度より希望する利用者に西城病院での健康診断を行いました。13人の利用者が希望されました。また、秋には西城病院より来所していただき、利用者、職員を対象にインフルエンザの予防接種を行いました(利用者24人、職員12人)。

送迎車内での利用者嘔吐が起きたことから、安全な嘔吐物処理方法の研修を行い、 全送迎車に嘔吐物処理セットを設置しました。

全利用者に毎月健康チェック(体重・血圧測定)を行い、その数値から生活習慣病につながるおそれがある方や体重減少が気になる方については個別に聞き取りをし、食事指導や継続した血圧測定等を行いました。今年度より BMI を計算し、標準体重を伝えることでより具体的に支援員や家族と情報共有が行えるようになり、気になる方については受診につなげました。

職員体制・職員研修

1) 職員体制

省令に定める「置くべき従業者及びその員数」を満たし、運営規定に定めた員数

を配置しました。

2) 職員研修

月	研修内容	実施日
4	障害福祉サービスの理解	4月12日(水)
4	5 類移行後のコロナ・インフル対応について	4月26日(水)
5	危険予知訓練 雨天時・狭い道路走行時	5月18日(木)
5	身体障害者の理解	5月24日 (水)
6	発達障害者の理解 〜氷山モデルで考えよう〜	6月7日(水)
6	フィジカルアセスメント	6月14日 (水)
6	虐待の目チェックリストの集計をもとに原因と対策を考 える	6月12日 (水)
7	事業報告・決算報告	7月12日 (水)
8	AED 講習会	8月3日(木)
9	対人援助技術のスキルアップ講座	9月13日 (水)
11	安全に送迎を行うための事前準備	11月8日 (水)
11	冬を元気に乗り切ろう、冬に気をつけたい病気・感染症	11月23日(水)
12	KYT 危険予測トレーニング	12月6日 (水)
12	権利擁護とは	12月20日(水)
1	AED 講習会	1月24日 (水)
2	コミュニケーションスキルをアップするために	2月7日(水)
2	社会福祉法人会計	2月14日 (水)
2	嘔吐物処理手順	2月19日(月)

2	障害者虐待防止法について	2月28日 (水)
3	新年度について	3月20日(水)

給食

タンパク質、脂質の摂取量を1日当たり1/3、カルシウム、鉄、ビタミンCは1/2を目標量として献立を作成しています。また、温度管理や衛生管理を徹底し、1年を通じて食中毒予防に努めました。

利用者の体調に応じて、看護や支援員と連携し、量の増減や除去および代替食を 提供し、完食できる取り組みを行っています。利用者の高齢化に伴い、刻み食や おかゆを希望される方が増えています。また複数の事業所を利用されている方に ついては事業所間で食事形態をそろえるよう連携をとったこともありました。

献立については、各部署ごとに利用者からリクエストメニューを出していただき、 献立に取り入れています。

物価の高騰が続く中、食材の調達にも工夫が必要ですが、五感を刺激する食事を 提供することでかわせみの家での生活がより豊かになるよう支援していきます。

地域活動

※高地区ふるさとまつり 令和5年11月5日(日)

※高小学校との交流

七夕交流会 令和5年6月30日(金) 雨天により不参加

七夕飾りの交換会を行う

年間行事

5	クリーンキャンペーン	5月3日 (水)
5	庄原駅前フェスタ	5月27日(土)
6	庄原里山パンマルシェ	6月18日(日)
6	高小学校七夕交流会	6月30日(金)
7	伍楽荘ボウリング大会	7月6日(木)
		7月7日(金)
9	親睦会 運動会 総合体育館にて	9月22日(金)
10	かわせみの家秋まつり	10月21日(土)
11	技能祭	11月3日(金)
11	高ふるさとまつり	11月5日(日)
11	高小学校ふれあい集会	11月30日(木)
12	庄原市役所庁舎販売	12月12日 (火)
	広島県就労振興センター事業の一環として	
12	KOKORO 夢舎夢舎忘年会	12月14日 (木)
12	ぱるぱるクリスマス会	12月22日(金)
12	わくわくクリスマス会	12月26日 (火)
1	とんど	1月13日(土)
3	クリーンキャンペーン	3月16日(土)
3	ぱるぱるおつかれさま会	3月29日(金)

地域生活支援事業

日中一時支援

障害福祉サービス外で利用希望のある方または休所に当たる土曜日の利用を希望 される方への支援を行っています。現在の登録者は32名ですが、実際にサービスを 利用されている方は1日平均10~12名程度です(土曜日)。

学校の長期休みに利用されている生徒さんが2人おられます。うち1名は新規の 小学生で今年度より利用を開始されました。

かわせみの家のサービスが終了した 16 時以降の延長利用を希望される方や日曜 日の利用を希望される方にも出来る限り柔軟に対応しています。

その他

① 広報 HP 更新

機関紙 かわせみ通信 年3回

- ② 見学実習の受け入れ
 - · 庄原特別支援学校見学
 - · 庄原中学校職場体験
- ③ 施設管理
 - ・消防訓練 年2回(9月 3月)
 - · 消防設備点検
 - · 車両点検 毎朝

6. 共同生活援助・短期入所 楓の郷

共同生活 定員6名 短期入所 定員1名

利用者が自立を目指し、地域において共同して日常生活を送ることができるよう、 常に利用者の立場に立ったサービスを提供しました。

利用者 6 人のうち 4 人が 60 代以上で、体調不良の訴えや通院の希望が絶えませんが、看護職と連携をとり、血圧測定や服薬管理を行い、必要時には受診につなげるケースもありました。また、口腔ケアについても声かけや見守りを行いました。

楓の郷の職員による定例会議を定期的に行い、個別ケースについて支援方法を共有 したり、避難訓練や行事も行いました。

グループホーム内でコロナウイルス陽性者が確認された際には、ゾーン分けをし、 利用者は自室待機となりましたが、職員の指示に従ってくださったのでグループホーム内でクラスターになることはありませんでした。

利用者1名が体調不良から入院となり3月に退所となりました(4月1日より新規利用者が入居となりました)。

行事

5	カープ観戦	5月26日(金)
8	高地区盆踊り	8月13日(日)
10	夜間想定訓練	10月18日 (水)
11	高ふるさとまつり	11月5日(日)
12	クリスマス会	12月21日 (木)
12	おもちつき 和っしょいにて	12月30日(土)

楓の郷職員会議 6月 12月 3月

7. 多機能型 (生活介護・就労継続B型) あんだんて (定員 20 名) 生活介護

(1) 利用実績

月	活動日数	延べ利用者数	実利用者数	平均利用者数
4月	22	153	8	6.9
5月	23	160	8	6.9
6月	22	153	8	6.9
7月	23	154	8	6.6
8月	23	152	7	6.6
9月	22	148	8	6.7
1 0 月	23	180	10	7.8
1 1 月	22	174	10	7.9
1 2月	23	184	10	8
令和6年1月	23	180	10	7.8
2月	21	165	10	7.8
3月	23	181	10	7.8

(2) 事業内容

新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、少しずつ活動内容にも変化がみられるようになり、個別の活動から小集団の活動、多集団の活動へとバリエーションが広がってきました。

支援については個別支援計画を充実させるために、利用者、家族の聞き取りを大切にし、個別支援会議を繰り返し行い利用者の強みを生かせるような活動になるよう取り組みました。活動内容としては、利用者のニーズに応じて散歩、レクリエーション、個別リハビリ、個別の活動などを提供しました。

また、あんだんての環境整備、下請け作業にも参加しながら、やりがいを持てる ような活動も提供しています。

新たに生活介護の活動としてアクリル毛糸を使用して「はたき」を制作しています。いろいろなパーツごとに複数の利用者が携わり、心のこもったはたきが完成し地域のイベントなどで販売をしました。

行事においては、お花見、運動会、クリスマス会、節分行事、グランドゴルフ大 会など開催をしました。

運動会においては家族も参加できる形で地域の体育館を借り、広い空間でのびのび と体を動かし笑い声の絶えないような雰囲気で行事を行うことができました。

また、季節を感じられるようなおやつ作りも利用者の発案で実施し楽しみを持ち ながら活動できる時間も提供しました。

障害特性の中で支援の困難さがある利用者については、広島県発達支援障害者支援センターの地域コンサルテーション事業に協力していただき、ニーズの確認、現状評価、課題を整理し支援の実施、評価と一年を通じて8回のコンサルテーションを受けさせていただきました。該当の利用者においては、日中活動の中で暴言が減り集団での活動にも参加ができるようになりました。

また、この機会に職員の知識や障害特性への理解が深められ支援体制にも変化が みられるようになりました。

10月より就労継続B型より日常生活レベルの低下に伴い、1名移行されました。

- 1) 利用定員 10名(登録者数 10名)
- 2) 障害支援区分 区分4・・・4名、区分5・・・3名

区分6・・・3名

3) 日課

8:40~9:15	登所 (徒歩、送迎車)
9:30~	朝の会、体操
10:00~12:00	午前の活動(散歩・リハビリ・個別活動・野外活動等)
12:00~13:00	給食、休憩、口腔ケア
13:00~15:00	午後の活動(散歩・創作活動等)
15:00~	帰宅準備
15:10~	帰宅(送迎車利用)
15:30~	

4) 休業日

日曜日、年末年始12月29日から1月3日

5)作業収入

はたき 27.050円

環境整備等 22.500 円

就労継続B型

(1)利用実績

月	活動日数	延べ利用者数	実利用者数	平均利用者数
4 月	22	177	10	8.0
5月	23	195	10	8.4
6月	22	178	10	8.0
7月	23	212	12	9.2
8月	23	218	12	9.4
9月	22	220	12	10

10月	23	207	12	9
1 1 月	22	220	12	10
12月	23	227	12	9.8
令和 5 年 1 月	23	229	12	9.9
2月	21	211	12	10
3月	23	231	12	10.0

(2) 事業内容

障害特性の強い利用者や精神疾患のある利用者の利用もあり、利用者平均区分が 高めな中、個別支援計画に基づき利用者が役割を感じながら小グループでの作業に 係れるよう工夫をしています。

どら焼きは3年を経て、利用者、職員も環境に慣れ、順調に製造できるようになりました。季節を感じられるような内容の商品も開発し、現在までに10種類の商品を開発しました。販路先として、総領道の駅、高野道の駅、地域でのサロンの販売、地域住民の方の購入がありました。新型コロナウイルスにともない中止されていた町内の行事にも実行委員会の一員として企画に携わることができ、利用者と共に販売をすることができました。

利用状況については、10月より日常生活レベルや作業能力の低下に伴い1名が生活介護に移行しました。

その後、地域からのニーズで疾患を理由に長年自宅での生活を送られてきた方に対して在宅支援を開始いたしました。朝夕2回の訪問をし、下請け作業などを提供し活動していただいています。

- 1) 利用定員 10名(登録者数 12名)
- 2) 障害支援区分 区分1・・・1名、区分2・・・4名、

区分3・・・3名、区分4・・・2名 区分なし・・・2名

3) 日課

8:30~9:15	登所 (徒歩、送迎車、自家用車)
9:30~	朝の会、体操
9:30~12:00	午前の作業
12:00~13:00	給食、休憩
13:00~15:00	午後の作業
15:00~	帰宅準備
15:10~	帰宅(公共交通機関、徒歩、送迎車)
15:30~	

4)休業日

日曜日、年末年始12月29日から1月3日

5)作業収入

食品部門 1,081,315 円

利用者の作業については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、服装健康管理・手洗いなど衛生管理を徹底し、安心・安全な作業環境に心がけました。

販売については、主に総領道の駅、道の駅たかのに納品を行い、コンスタントに 収益を得ることができました。また、総領町内で行われた人権フェスタ、夏祭りで の販売も行うことができました。

農耕部門 197,551 円

畑作業においては、地域の野菜の流通状況を検討しながら極早生玉ねぎ、大豆、 黒大豆を育成し販売につなげています。

また、昨年度初めて仕込みを行った味噌についても、半年を使って味噌の評価を 行い販売に向けての準備を整え販売許可も取得しました。

下請け部門 905,108円

令和5年度は様々な下請け作業を行いました。

新規開拓として地元の辰栄製作所より食器洗浄機の部品の組み立て作業を 請け負うことができるようになり、コンスタントな受注があり利用者も意欲的に取 り組んでいます。

そして新たに中小企業同友会より企業と福祉の連携を図ることを目的として、地 元企業の菓子箱にシールを貼る作業をいただきました。

12 月からは天然石を取り扱う業者より石の分別作業の依頼があり、多くの利用者が携わっています。

アルミ缶回収 134,860円

地域の方などからの直接搬入、保護者・かわせみの家からの搬入などで多くのアルミ缶を集めることができました。また、潰す作業もないため手間をかけずに収入を得ることができました。

その他 35,000 円

利用者のアートに関する創作意欲を高めるため、広島県が主催となり企画される「愛サポート展」に出展いたしました。その活動を進めていく中で、障害者のアートを紹介する機関が仲介となり、あんだんての利用者の絵がお菓子の包装紙となりました。

あんだんてとしても初めて絵画の契約を行い、高い報酬を受け利用者に還元できたことが更なる活動意欲にもつながっています。

健康管理

利用者・職員の健康維持のため、生活介護の利用者は嘱託医である西城病院の郷力院長の往診を受け、施設内では毎月健康チェックを行い健康管理に努めました。

職員については庄原赤十字病院、西城市民病院において、健康診断を行い、結果 表により看護師より指導・助言等を行っていきました。

また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたとはいえ、日々利用者の健康状態の把握に努め、室温、換気、検温、表情の確認をもとに変化がある場合、家族との連携をとり早期対応をしました。

その結果あんだんてにおいて、クラスターは発生しませんでした。

職員体制・職員研修

(1) 職員体制

省令に定める「置くべき従業者及びその員数」を満たし、運営規定に定めた員数 を配置しました。(各事業の運営規程に記載)

(2) 職員研修

月	研修内容	実施日
4月	新年度にあたり	4月4日 (火)
4月	感染対策委員(新型コロナ5類移行にあたり)	4月22日(月)
4 月	個別支援計画研修	4月24日(月)
5月	コロナウイルス感染症移行に関する研修	5月5日(水)
7 月	発達障害について	7月12日 (水)
7 月	食品衛生(食中毒について)	7月12日 (水)
		13日 (木)
9月	エネルギー省エネについて	9月6日 (水)
9月	事故発生検証(車両編)	9月20日 (水)
11月	連絡協議会研修(愛着障害)	11月13日(月)
12 月	感染対策研修 (ノロウイルス感染症)	12月25日(月)

1月	ヒヤリハット事例検討	1月17日(水)
2 月	介護技術研修、事故事例研修	2月5日(月)
3 月	権利擁護、虐待防止研修	3月12日 (火)
3 月	笑いヨガ	3月14日 (木)
3 月	報酬改定について	3月29日(金)

給食

食材はヨシケイで仕入れ献立に就労継続B型で収穫した野菜を買い上げアレンジ を加えながら作成しました。

温度管理や衛生管理を徹底し1年を通じて食中毒予防に努めました。

利用者の状況に応じて、刻み食やトロミ対応を行っていきました。

地域活動

コロナウイルス感染症の影響でイベントなども中止となっていたものが少しずつ 再開され参加しました。

また、地域より依頼があり枯れ葉集めやクリーン活動も実施しました。

地域生活支援事業

日中一時支援

障害児(者)を介護している家族の介護負担軽減等を目的としたこの事業では 障害福祉サービス外で利用希望のある方または、休所にあたる土曜日を中心にレクリ エーション、創作活動、見守り等を行いました。

8. 共同生活援助・短期入所 (和っしょい)

利用者が自立を目指し、地域において共同して日常生活を送ることができるよう、 利用者の意思及び人格と利用者・家族の意向を尊重し、常に利用者の立場に立ったサ ービスを提供しました。

また、食事についてもヨシケイの食材を利用し摂取カロリー・塩分にも配慮し、健 康的な生活が送れるようなメニューを提供していきました。

季節の行事として餅つきやうどん作り、外食など利用者の声を聞きながら実施いた しました。

利用者の体調も安定しており令和5年度おいて入退所はありませんでした。

地域の行事にも参加し、清掃作業、グランドゴルフ大会、焼き肉交流会などにも参加 させていただきました。

9. 相談支援事業所 ひまり

今年度は事業所の場所がかわせみの家へと移転しました。引き続き新しい拠点においても一般相談支援、特定相談支援及び、障害児相談支援として障害児者自身が望む生活を支えることを目的とし、抱える課題の解決を行いながら本人に合った適切なサービス利用ができるよう計画相談の作成、一人ひとりの特性に合ったサービスが提供されているか定期的なモニタリングを行いました。

最近は、通所から帰宅後の居場所探しや短期入所などに関する相談が多くあり、実際にサービス利用へ繋がるケースもありました。直接ご本人やその家族から相談事業所に相談されるだけではなく、通所事業所を通じて困りごとをお聞きする機会を持つこともできています。また、他の相談支援事業所の相談員との情報共有も意識して行うことにより、より良い解決に向けて考えていくことができました。

障害児の相談については3件の新規契約がありました。しかし今まで児童発達支援のサービスを利用していた方でも就学を機に利用料がかかってしまうという理由から通所を断念するといったケースも数件あることから、今後も「気にかける必要のある家庭」として距離を保ちつつ関わっていく予定です。